

《学園だより》

准看護学科の2年生は、約8か月に及ぶ臨地実習を終了しました。そして、現在は2月14日に実施される富山県准看護師試験に向けて邁進しています。本校の看護学科に進学を希望している学生もおり、入学試験に向けても取り組んでいるところです。

看護学科の3年生は、2月17日に行われる第108回看護師国家試験に向け、校内で行われている実力試験や模擬試験、補講など試験一色になり、全員合格に向けてラストスパートをかけています。

2年生は母性看護学、小児看護学、精神看護学など各論実習を行っています。また、透析見学や緩和ケア病棟見学、手術室見学なども行い、急性期病院としての役割や特徴、機能についても学びを深めています。

以下に学生の緩和ケア病棟見学実習における学びを記載します。

今回の緩和ケア病棟見学において、看護の原点ともいえることを再度認識することができた。まず、病棟の入り口から季節のものを取り入れたり、温かみのある雰囲気の中で患者、家族を受け入れる体制、お待ちしておりますよということが病棟の入り口から伝わってきた。また、病室にも木目調を主体とした、より家庭に近い温かみのある雰囲気の中で、病院であることを忘れるかのような構造であった。緩和ケア病棟は、対象が全科にわたるので、酸素投与や医療用麻薬の使用、持続点滴や注射など様々な知識と技術が求められる場であるということを感じた。

患者の最期には家族だけでなく、親族や会社の人も集まることが多い。近年では息子、娘が県外にいてすぐに駆け付けることができなかったり、子どもと縁を切っている人もみられる。その中で、宗教の繋がりが思いのほか最期まで根強い場合もあるということを知った。

今回の見学実習を通して一つ驚いたことがある。それは、死期が近い患者に対してモニターをつけないことである。現在、私は慢性期病院で勤めているが、死期が近い患者に対してモニターを装着し、数値を通して状態を把握している。しかし実習病院の緩和ケア病棟では、最期はモニターを装着せず、脈拍や呼吸を看護者の目を見て、触れて感じとり五感で観察していることを知った。モニターを装着しない理由を問うと、モニターを装着することで、家族が数字ばかりに目がいきってしまい大切な最期の家族の時間を過ごせなくなると聞き、とても納得した。最期の家族だけの時間は、“昔こんなことがあったよね” “お父さん、お母さん〇〇が好きだったよね” など思い出を振り返

り、別れの時間を共有することが大切だということを学んだ。家族の中には、お父さんの仕事が消防士やいつもスーツを着ていたという理由から、見送る時の服装を消防着やスーツに着替える人もいることを知った。病衣を着ている患者さんというふうに見てしまいがちだが、家族にとってはいつまでたっても自分の親に代わりはないということを強く感じた。

最後に師長さんに一つ相談をした。勤務中、特に夜勤中に看取りに遭う機会が多い。その中で、取り乱す家族や現状を受け入れきれていない家族に対して、何と声をかけていいのかいつも戸惑う。そこでいつも、「耳は最後まで聞こえているので話しかけてあげてください」と言うが、本当にそれが適切であったか、もっといい言葉の掛け方があったのではないかと葛藤してしまうことを師長さんに話した。それに対して、自分の声掛けはとても良いのではということを書いていただいた。そこにもう一つプラスで「入院中にこんなことを言っていましたよ」や「ゼリー1個にしてもがんばって上手に食べていましたよ」という一言があるだけで、家族は救われた気持ちになると助言をいただき、今後の看護における家族との関わりに活かしていけると思った。また、急激な変化に対して受け入れきれない家族、取り乱す家族については、落ち着く時間も必要なため、待つことも大切であることを学んだ。

今回の見学実習を通して、看護の原点を改めて学ぶ機会になった。また、今後の自分自身の看護に繋がる道筋も建てることができたので、とても有意義な実習となった。

<行事予定>

2 / 2 (土) 一般入学試験 (学科)

2 / 3 (日) 一般入学試験 (面接)

2 / 5 (火) 一般入学試験合格発表

2 / 14 (木) 准平成 31 年富山県准看護師試験

2 / 17 (日) 第 108 回看護師国家試験

2 / 18 (月) 入学手続き締め切り

3 / 1 (金) 2 年生各論実習一時終了

3 / 7 (木) 卒業式・特別講演 (サンフォルテ)

3 / 11 (月) 富山県准看護師試験合格発表

3 / 15 (金) 終業式

3 / 20 (水) 新入生ガイダンス

3 / 22 (金) 看護師国家試験合格発表